

平成 28 年度 大学の世界展開力強化事業 審査結果表

大 学 名	千葉大学	タイプ	A-②
事 業 名	植物環境イノベーション・プログラム		

〔評価コメント〕

本事業計画は、千葉大学の特徴である園芸学に焦点を当てており、工学をクロスさせ、学部と大学院で専門領域の変更が可能な SMDD (Switch Major Double Degree Program) として、農学と工学の双方を学修させる PBL やインターンシップを含む複数のプログラムを用意した意欲的な取組となっている。また、キャンパス・アジアに先駆けて実施された日中韓による交流事業の経験を踏まえて、これを更に発展させた優れた計画で、具体性もあり、高く評価できる。参加大学の拡大のため、既にダブルディグリー・プログラムの協定校である中国・清華大学（建築、美術）、浙江大学（デザイン）に、今回更に、韓国・延世大学（デザイン系）を加える戦略的な連携を計画しており、相手校の選択、並びにニーズ把握も適切であり、綿密に計画を進めていることが評価できる。産学連携のスキームも概ね整っており、事業の継続性についても期待できる。更に、植物環境イノベーションというテーマそのものには、新規性があり、目標とする人材像並びにその実施方法についても明確に示されており、事業の実現性がある。

また、学生の支援体制についても、学内の関連研究科では、計 20 の海外の大学とのダブルディグリー・プログラム、アジア・欧州の 8 大学とのグローバル・スタディ・プログラムや、多様な英語プログラム等、これまでの数多くの実績とノウハウがある。本事業においても受入・派遣の学生数が具体的に計画されており、千葉大学の特色ある園芸学と工学との連携によるグローバル人材育成の取組に期待ができる。交流プログラムの質の保証についても、授業ナンバリングや留学生向けの専門スタッフを配置し、また 6 学期制をうまく活用して協定大学からの教員を招聘するなど、よく工夫されている。更に、大学院における教養を涵養するカリキュラムの実施により、学生の大学院への進路選択や社会での活躍の場も広がると期待できる。

一方、国際化に対応する全学 FD の参加者数が低いことや、園芸学部においては、グローバル関連の FD は過去 4 年間で一度も開かれていないことが懸念される。本プログラムの認知度を高めるために、今後は、FD 開催を初めとした情報公開と、きめ細かなニーズに対応することが必要であり、更なる検討が望まれる。

最後に、今回「大学の世界展開力強化事業」に採択された貴学におかれては、将来の我が国と中韓両国との関係を見据え、質保証を伴った国際教育連携の先導的モデルに中心となって取り組む拠点大学であるということの意義とその責任、期待の重さを認識し、事業内容の実現に向け真摯に取り組まれることを強く要請する。